

現球場（広島市民球場）跡地利用についての検討経緯

1 これまでの経緯

平成16年(2004年) 8月31日	新球場の早期建設についての要望(地元経済4団体 広島市)
平成16年(2004年)11月26日	広島県、広島市、地元経済界、カーブ等による「新球場建設促進会議」を設置
平成17年(2005年) 3月30日	「新球場建設促進会議」が新球場建設の方向性をとりまとめ
平成17年(2005年) 8月 8日	新球場建設場所の了承と現在地の活性化策についての要望(地元経済4団体 広島市)
平成17年(2005年) 9月16日	「新球場建設の基本方針」公表

2 検討状況

(1) 市民、民間事業者からの提案募集

ア 市民からの提案募集

市民の関心が高い現球場跡地利用について、できるだけ多くの市民の意向を把握し、跡地利用の方向性のとりまとめの検討に活用するため、市民から提案を募集しました。なお、民間事業者と同様の詳細な検討内容の提案も受け付けました。

イ 民間事業者からの提案募集

厳しい財政状況の中で、民間事業者の活力やノウハウを活用し、実現性の高い跡地利用案を方向性のとりまとめに反映するため、民間事業者から提案を募集しました。

ウ 募集期間

平成17年(2005年)11月15日から平成18年(2006年)1月20日まで
(約2ヶ月間)

(2) 各種団体からの提案、意見の聴取

各界各層からの意向を把握し、「跡地利用の方向性」のとりまとめの検討に活用するため、昨年12月16日及び本年1月12日に「現球場跡地利用について提案、意見を聴く会」を開催し、地域団体、市民団体等から提案、意見等をお聴きしました。

(3) 提案等の件数

- ・市民、各種団体等からの提案等の件数 378件
- ・民間事業者からの提案件数 26件

「新球場建設の基本方針」より抜粋

3 現球場跡地利用について

(1) 基本的な考え方

都心部の魅力をより高めるため、現球場(広島市民球場)跡地の利用について、年間150万人以上を集客目標とした、新たな賑わいとなる都市機能の導入強化を図る。

新たな集客機能となる中心施設とともに、周辺の基町環境護岸や中央公園の既存施設の活用も含めた一体的な賑わい空間をめざし、本通りやシャレオなど周辺地域との回遊性を創出する。

現球場の一部改修も含めた活用や、現球場を除却して、新たな利用を図る場合など、幅広く検討する。新たな集客機能の導入にあたっては、厳しい財政状況をふまえ、民間の活力とノウハウを十分活用する。

(2) 今後の進め方

現球場跡地の利用について、民間事業者から幅広く提案を募集するとともに、各種団体及び専門家などから意見を聴取し、市民意見の募集や議会の議論を経て、今年度中に新たな集客機能の方向性をとりまとめ、平成18年度(2006年度)に利用計画を決定する。

(3) 全体スケジュール(次ページ参照)

平成17年度(2005年度)	跡地利用の方向性のとりまとめ
平成18年度(2006年度)	利用計画の決定
平成19・20年度(2007・2008年度)	事業着手のための準備期間
平成21年度(2009年度)	事業着手(予定)

3 現球場跡地利用及び新球場建設の全体スケジュールについて

